

白老東高校を地域で応援しよう 地学協働活動の核が発足



昨年12月、令和4年度第1回コンソーシアム会議が同校（小川政博校長）で開かれ、地域と学校が連携してまちづくりと学びを進める地学協働活動推進実証事業が本格スタートしました。

同校は北海道CLASSプロジェクト（令和3～5年度）の研究指定推進校。学校への地域人材の招へいや、生徒が地域に飛び出した活動を通し「生徒の主体的な活動」「自分たちで課題を発見する」取り組み。

コンソーシアムを組織するのは、研究機関（ウポポイ、元陣屋資料館）、企業・経済団体・NPOなど（商工会、青年会議所、観光協会、アイヌ協会、NPO法人ウテカンパ）、自治体・行政機関（町役場、町教委、胆振教育局・道教委）。

会議では会長にウテカンパの田村直美さんを選出。同校1期生で学校評議員の田村さんは「横のつながりを感じた一年でした。これをもっと広げたい」と多様な「応援団」の支えに期待していました。

小川校長から、ガイドなど元陣屋資料館と連携した活動や地域おこし協力隊との対話、ウポポイでの体験、商店街の動画制作、まちの清掃活動、白老文化芸術共創の学習、各



種NPO法人の取り組み参加など、「巡検」「講座」「対話」「発表」などカリキュラムの説明がありました。「各単元を実施、課題や改善点を検証しつつ、地域と連携した探究的な学習活動としたい」と話していました。参加者からは、惜しみない支援の声が上がっていました。

北海道遺産選定を祝い役場庁舎正面に掲げられた懸垂幕（縦6m、横1m）が、役場を利用する町民、道行く人の目にとまっています。白老コミセンにも設置されています。また、元陣屋資料館には縦0.6m、横3mの横断幕も掲げられ、史跡の保存と活用に向け官民協働の活動が期待されています。



おめでとうございます!

中村勝吉さん(99)